

平成 30 年度

学生によるオレンジリボン運動

佐野日本大学短期大学 実施報告書



実施主体 総合キャリア教育学科 社会福祉士・介護福祉士フィールド

実施内容 平成 30 年 10 月 27 日(佐野日本大学短期大学 みかも祭)

10 月 30 日(道の駅「どまんなかたぬま」)

11 月 16 日(佐野市役所)

11 月 17 日(イオンモール佐野新都市)

①事前に取り組んだ内容

◆学生の手作りオレンジリボンの作成

より多くの皆様に周知したいとの思いから昨年度より数を増やし、600 個作成しました。また、オレンジリボンには紫外線硬化樹脂を塗り、UV ライトをあることにより質感と耐久性を高めました。特に耐久性に関しては、継続的な使用を可能にすることでオレンジリボン運動の周知につながると考えました。

さらに、自分で作ることで、興味・関心を高めることができると思い、啓発活動には「『オリジナル my リボン』作成コーナー」を設置することも決め、準備しました。

◆子どもを守ろう！メッセージの募集（ワークショップ）の実施に向けて…

児童虐待防止や子育てにやさしい社会を構築するために必要なことを考えるのも、本活動の大切な点であると思っています。そのため、今年度新たに本学オリジナルの取り組みとして、児童虐待や子どもを守るためのメッセージを書いていただくコーナーを実施しました。

単にメッセージを書いていただくのではイベントの楽しさに欠け、参加できる対象も大人に限定されてしまうのではないかと考え、折り紙という身近な素材を使い、折り紙の楽しみを含めて、お子さんからご高齢の方まで参加できるよう工夫しました。

また、メッセージを記入することで完結せず、自分のメッセージが形として残った上、みんなでひとつの物を作る達成感が感じられたらよいと思い、オレンジリボンのモチーフを作ることにしました。

啓発イベント前には、モチーフの土台を作成したり、折り紙でオレンジリボンを作成したりと、多くのメッセージが集まるよう準備を進めました。

◆手話ダンスを通しての啓発活動について

虐待は児童の他に、高齢者や障害者に対する虐待も起こっています。さまざまな虐待が起こっている現状を知るきっかけになればよいと思い、身近なものからそれらを伝えられないかと考えました。そこで、お子さんが知っている歌と、テレビ番組やCM等で広く知られている歌を使用した本学オリジナルの手話ダンスを考え、披露することにしました。知名度の高い曲を使用し、啓発イベントで学生が披露することで、啓発会場の明るく楽しい雰囲気をつくれるよう練習を重ねました。

◆啓発イベント実施会場の増加

今年度新たにイオンモール佐野新都市での実施を加えました。イオンモールでの実施は、大型ショッピングセンターである利点を活かし、市内を問わず、幅広い年齢の皆様にご児童虐待や本活動を知っていただける機会になると考え、イオンモール様ご協力のもとに実施しました。実施日時が土曜日午後であったことも功を奏し、家族連れや遠方からのお客様など、多くの皆様に参加していただくことができました。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

◆オレンジリボンおよびチラシの配布

児童虐待防止に関するチラシとともに学生が手作りしたオレンジリボンを配布することで、相手が気軽に受け取れ、リボンを身につけることから本活動を発信できると考えました。その結果、約500個のオレンジリボンを配布することができました。

◆「オリジナル my リボン」作成コーナーの実施

来場者参加型のワークショップを設置し、オリジナルのオレンジリボン「my オレンジリボン」を作り、お持ち帰りいただきました。参加してくださった方はお子さんが多かったため、学生と一緒に作成する形となりましたが、お子さんが作成している様子をご家族がそばでご覧になられており、とても微笑ましい光景でした。お子さんにも好評で、作成したオレンジリボンを手に、喜ばれていました。

◆子どもを守ろう！メッセージの募集

各啓発イベント会場に児童虐待や子どもを守るためのメッセージを記入するスペースを設け、募集しました。メッセージは、折り紙で作ったオレンジリボンに書いていただきます。お一人おひとりのメッセージは所定のパネルに貼ると、大きなオレンジリボンのモチーフになります。お子さんやご家族皆様から数多くのメッセージが集まり、心も一つになった大きなオレンジリボンが完成しました。実施前はメッセージが集まるのか、モチーフが完成するのか不安でしたが、文字にこだわらず、絵やシールなどを使った様々なメッセージを集めることができました。

◆手話ダンスを通しての啓発活動

本学オリジナルの手話ダンスを考え、披露しました。手話ダンスに使用した曲は、お子さんが知っている歌であることと、テレビ番組やCM等で広く知られている歌であることをもとに選びました。また、気持ちが明るくなり、笑顔で過ごせ、幸せになっていただきたいとの願いを込めて、曲名が「Happiness (ハピネス)」＝「幸せ」のものにしました。学生の動きに合わせて手話を行ってくださる方の他、手話ダンスの演奏を耳にしたことでイベント会場に足を運び、活動に参加してくださった方もいらっしゃいました。また、佐野市ブランドキャラクター「さのまる」と一緒に活動することにより、啓発活動を盛り上げました。

◆学生の司会によるメッセージの発信

手話ダンスの披露前に、司会学生が虐待などに関する内容を伝えました。メッセージの内容は以下のとおりです。

- ・児童虐待だけではなく、高齢者虐待、障害者虐待も増え続けていること
- ・虐待を少しでも減らすためにはみなさんの力が必要
- ・みなさんの言動で助かる命がある、救われる人がたくさんいる
- ・温かい目でみんなを見守る、温かい心で悩んでいる人の気持ちに寄り添う、心温まる手を差し伸べる

- 温かい微笑みと温かい手で、ともに生きる、素敵な社会を作っていきたい
- オレンジリボンのオレンジ色のように温かく、リボンのようにみんなの気持ちが一つにつながることを願っていること

◆募金活動の実施

啓発事業およびオレンジリボン運動のさらなる推進を願い、一部の会場にて募金を呼びかけました。イベント参加者の皆様と本学教職員から、心温かい寄付金が集まりました。なお、本寄付金は、平成30年12月17日（月）認定特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワークへ寄付いたしました。

③オレンジリボン運動を終えて…

・「子どもを守ろう！メッセージ募集」のワークショップを行い、折り紙のオレンジリボンにメッセージを書き、大きなオレンジリボンのモチーフを作成したことで、様々な熱い思いを来場者と共有することができました。そして、オレンジリボンのモチーフが完成したときの感動は忘れられません。また、お子さんが折り紙をパネルに貼る際は、一生懸命背伸びをして貼り付け、その姿を笑顔でご家族がご覧になっていたり、ご家族と一緒に貼られたりと、家族の心温まる場面を見ることができました。本活動を通して、多くのお子さんやご家族と接したことで、みんなで一緒に過ごすこと（時間）が虐待防止につながると感じました。さらにメッセージを募集したことにより、他者が児童虐待に関してどのように考えているのか、子どもたちは何を思っているのか、どうしたら子どもを守れるのか等、虐待にこだわらず、互いに助け合うことや素敵な社会をつくることを考える機会となりました。

・オレンジリボン運動終了後は、スーパービジョン・振り返りを行いました。プロセスレコードも取り入れたKJ法とブレインストーミング法による特性要因図の作成では、ピアグループスーパービジョンによりケースを多面的に検討することができました。



- イオンモール佐野新都市での啓発活動および本学の取り組みは、平成30年11月19日（月）佐野ケーブルテレビにて放送されました。イベント当日インタビューを受けた代表学生2名の言葉（虐待防止や啓発活動に関する内容）が伝えられました。
- 児童虐待防止全国ネットワーク主催の「平成30年度 学生オレンジリボン運動全国大会」にエントリーしました。



【佐野日本大学短期大学】 <http://sanotan.jp/>